平成5年12月25日第5種郵便物認可

1998年12月25日（金）

月刊クリスマス

第4号

発行所　日本クリスマス協会
発行人　のびのぶ編集長
発行所　のびのぶ工房

日本クリスマス協会 栗須増子会長の挨拶

クリスマスを愛する皆様、メリークリスマスでございます。今年もすばらしいクリスマスを迎えられたでしょうか。

日本クリスマス協会も少しずつその認知度が高まり、「えっ、あの日本クリスマス協会の会員なんですか、すごいなぁ」と羨ましがられる日ももう少しでございます。

今年は栗須増子会長自ら、遠征して日本クリスマス協会を世界クリスマス協会に格上げしようと、『世界的に有名なドイツのクリスマスマーケットに日本クリスマス協会の「のぼり」を立ててくるぞ作戦』を計画しました。が、原稿の締切りと親切なドイツ人不足のため、失敗に終わりました。誠に残念なことです。

来年こそは実現させたいと思いますので、『ワタシの家の伝統的なクリスマス、ミセテアゲルヨ』という親切なドイツ人を発見しましたら、ぜひご一報ください。当方、ソーセージ作りやビール運びなどお礼奉公もいたします。恩を仇では返しません。

また今年の日本クリスマス協会普及にはすばらしい『のびのぶ編集長のイラストつき・日本クリスマス協会の名刺』(右)が活躍いたしました。

今年のツリー

今年は昨年とちょっと似てますが、香港やバハマで手に入れたオーナメント（黒人のサンタなど）が加わり、多国籍ツリーとなっております。横におりますは、シンガポールで手に入れた民族衣装でご満悦ののびのぶ編集長、いや栗須増子会長。

ラジカル鈴木さんという有名なイラストレーターさんが作ってくれて、チョットお色気のだっちゅーのポーズですが、大人気です。日本クリスマス協会のデザイン部にスカウトさせていただきました(勝手に…)。

来年も日本クリスマス協会のさらなるご繁栄をお祈りしまして、ご挨拶に代えさせていただきます。みなさま、素敵なクリスマスとお正月をお迎えくださいませ。

★右が、ラジカルさんが作ってくれた名刺。渋谷区道玄坂に住むラジカルさんとのびのぶ編集長は「渋谷区友の会」を結成しました。地震があったら、避難場所は一緒です。会員募集中。名刺が欲しい方もお早めにお申し出ください。

グアテマラ支局からの報告

特派員・スーちゃん

グアテマラでは12月に入って、毎日のように何かとお祭りがあります。子供たちがインディオの格好をするお祭りでは、私も衣装を借りて参加しました。すごいメイクをさせられて、恥ずかしかったです。

また、昨日はポサダというクリスマスの行列がありました。8時過ぎから1時間ぐらい歌を歌ったり、ギターをひきながら歩くのですが、私はまだスペイン語の歌を歌えないので、マラカスを振りながら一緒に歩いてきました。クリスマスの夜には、タマレスというトウモロコシの粉に肉やトマトソースを混ぜてバナナの葉で包んで蒸したものを食べるそうです。

★スーちゃんはのびのぶ編集長と同じ漂流民で、旦那さんがバナマに行っているので、全然関係ないグアテマラでビールを飲んでいます。これから、ペルーに移動する予定。無事に戻ってきてね。

のびのぶニュース（いつも私信でスミマセン）

昨年は自分が農耕民族でなく、遊牧民族だと気がつきましたが、今年はとうとう漂流民になってしまいました。あなたのところに流れ着くのも時間の問題です。

★今年の海外漂流は365日中54日！

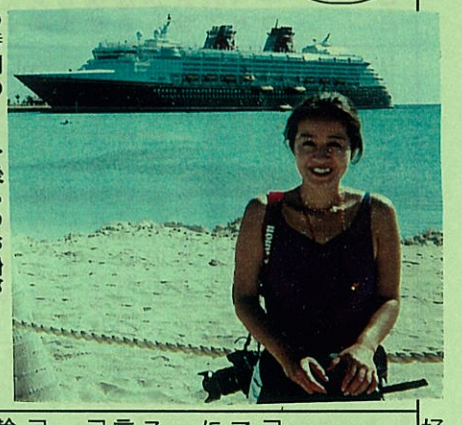
シアトルから戻ってきてからは、非常にドメスティックな生活をしていたのびのぶ編集長ですが、今年は何を思ったか、まるで出稼ぎ外国人のように日本の外に行きました。NHKの集金屋さんから「いつもいないから、2ヵ月に1回払ってくれればいいよ。それも白黒テレビの値段にしてあげよう」といってもらえたほどです。

★制覇したのは13カ国

一体どこで何をしてたかというと、まず作家の取材のお手伝いで、イギリスの大きなお船に3月から40日間乗り、寄港地の香港、シンガポール、マレーシア、インド、アラブ首長国連邦、ヨルダン、イスラエル、エジプト、ギリシャ、スペインをまわって、イギリスで終点。

船‖「小さい時にお墓参りのために載った長崎・五島列島行きのフェリー」のイメージがあったのびのぶ編集長ですが、乗客1760人、乗務員760人が乗る大きなお船だったので、快適なダラダラをすることができました。ダラダラしていても、次の国に連れていってくれるので、ナマケモノののびのぶ編集長にはもってこいでした。

船の中にはプールやテニスコートもあり、たくさんお友達(みんなおじいさんとおばあさんでしたが)もできました。



→後ろのお船がディズニーマジック

★後半もうろちょろと…

その後は、昔のルームメイト・スーちゃんと「のら犬の撮影旅行＆これまた昔のルームメイトのサムに会いに行こう旅行」で、香港へ。あの高層マンションの1室にあるサムのおうちに泊めてもらって、怪しげな屋台で中華料理バンザイと食べまくり、ここでは2キロ増量(スーちゃんはお腹をこわしました)。出発日の成田に着く5分前の電車の中で、「あっ、これから海外に行くのだからパスポートが必要だったんだ」と思い出したのびのぶ編集長を怒りもせず、出発を翌日に延ばしてくれたスーちゃまんに感謝です。

そして11月にクルーズ雑誌『船の旅』の取材でアメリカ・フロリダ運航しているディズニーマジックというお船に乗せてもらい、バハマへ行きました。ミッキーやプーさんも船に乗ってるので寂しくないと思って行ったら、そういつでもいるわけでもなく、一人ぼっちでした。でも一緒のプレスツアーで行った他の出版社や新聞社の方々が仲良くしてくれたので、孤独死することなく無事戻りました。

来年も浮遊したいと思います。見かけましたら旗を振ってください。スポンジも歓迎です。

好評連載・読切り第4弾

クリスマス犬

米山公啓

「ねえ、知ってる最近クリスマス犬が出るんだって。新聞に載っていたわ」

比路子はスプーンでアイスクリームをすくいながら言った。

「なに、それ」

ユキはポカンとして訊く。

「知らないの。街にね、光る首輪をした犬が歩いているんだって」

「だれかがいたずらでやったんでしょう」

「今時、のら犬なんていないでしょう。東京にそんな犬がいたらすぐに捕まえられてちゃうわ。クリスマス犬は普通と違うのよ。それに追いかけていくと消えるんだって」

「そんな…写真とかあるの」

「それが噂だけだから、だれもそれを見た人はいないのよ」

比路子は自慢げだ。

「あなたは見たの？」

「まさか。見てみたいけど…」

もうすっかり喫茶店の中もクリスマス気分だ。おおきなツリーにはいくつも小さな電球が飾ってある。

「綺麗ね。今年はイブはどうするの？」

ユキが比路子に訊く。

「もちろん…なにもなし」

「なんだ。お互いしょうがないわね」

外を見ると白いものがちらつき始めている。

「今年はホワイトクリスマスかな？」

ユキが言う。

「でも関係ないわね」

比路子は答えて、席を立った。

ユキは外をみた。もうかなり雪が積もっている。本当にホワイトクリスマスになった。今年は誰からもプレゼントをもらえそうになかったので、自分用に最近流行の小型のインスタントカメラを買って持ち歩いている。

外の雪景色を撮ろうと、窓を開けた。冷たい空気が流れ込む。

と、降り積もった雪の中をきらきら輝くものが歩いてくるではないか。

「まさか」

茶色をした犬だ。柴犬くらいの大きさだが、ちょっと面長の顔だ。首輪が星のように輝いている。しかし、犬は寒い中をやや首を振りながらどんどん歩いて行く。

ユキは追いかけるようにして、インスタントカメラでその輝く犬を撮った。

犬が歩いて向こうへ行ってしまったあと、インスタントカメラのフィルムがだんだん色がでてくる。しかし、雪景色は写っているが、肝心の犬の姿はなかった。

「そんな馬鹿な」

ユキは写真をこすった。

すると犬が写っているはずのところだけが金色に一瞬輝いた。

あの犬はいったいどこへ消えたのだろうか。しかし、幻でもよかったのだ。ユキは明日、比路子に自慢をしようと思っていた。

←江渕ユカちゃんちの犬

米山公啓（よねやまきみひろ）
今年は大学病院を辞め、本格的な作家業へ。今年も相変わらず大爆走で12冊の本を書きました。のびのぶ編集長が手伝っているファンクラブ「よねよね倶楽部」も会員が700名を超え、7月にできたホームページもアクセスが1万件を超えました。来年はぜひミリオンセラーを！
ホームページのアドレス
http://www1.sphere.ne.jp/yoneyone/